

天津市での流行の概要と、中国 CDC 疫学首席専門家 吳尊友氏インタビューの概要

【2022 年 1 月天津市(人口 1387 万人) でのオミクロン株 (BA.1) の流行】

*中国本土初のオミクロン株市中感染。

*1 月 8 日の発見から 2 月 15 日までの累計確定症例は 425 例、無症状感染者は 22 例 (6 名は無症状のまま観察解除、16 名は症状が出た時点で確定症例に算入)、2 月 15 日現在入院中の患者は 15 名。

*オミクロン株は隠匿性が強く、発見時点で第 3 世代まで感染が広がっていた。

*初期感染者に海外との接点はなく、感染源は不明。

*最初の 13 日間で、すでに隔離管理中の者以外の新たな市中感染者はなくなり、収束に向かった。

*全員 PCR 検査

1 回目 1 月 9 日～ 検査人数 1252 万 3310 人 陽性者 77 例

2 回目 1 月 12 日～ 検査人数 1206 万 7865 人 陽性者 44 例

3 回目 1 月 15 日～ 検査人数 1243 万 1636 人 陽性者 59 例

(2 回目以降の陽性者はすべて隔離、封鎖管理対象から発見された)

[小児患者への対応]

*学童保育でクラスターがあったことから、1 月 15 日までの時点で 2～14 歳の小児患者は 78 例 (患者全体の 36.5%)。8～12 歳の学童が中心。

*ほとんどが軽症であり重症、重篤の小児はいなかった。

*全員が入院治療となるが、できるだけ知っている子どもどうしで、または家族と小児患者が同じ病棟で入院 (21 家族) できるようにした。

①小児患者が親しみやすい方法で COVID-19 についての知識普及や心理サポートを実施。

②小児患者が食べやすいメニューの提供、折り紙やお絵かきなどを実施。

③医療従事者と保護者の連絡は密にし、保護者とのビデオ通話を実施。

【天津中医薬大学名誉校長 張伯礼院士による天津防疫の経験のまとめ】

①迅速：1 月 8 日に発見、翌 9 日に全員検査。

・オミクロン株は感染の世代時間が短いことから、迅速にスクリーニング検査をして対策しないと、またたく間に 2～3 代まで広がってしまう。

②厳格：外出禁止と決められたら市民は厳守した。

③正確：感染可能性のあるエリアをピンポイント管理し、リスクの高低を分けて管理することで全市的な影響をできるだけ軽減。

*中国では感染者は無症状者を含め全員入院治療、濃厚接触者と二次接触者は隔離する。

(自宅で自主隔離では、家庭内感染や地域での感染拡大につながる)

*無症状感染者にも予防のための中薬を服用してもらう。

(現在軽微な症状か無症状でも後遺症が出現することがあるため)

関連記事（中国語）

『天津已收治本土确诊患儿 78 例 年龄最小的 2 岁』 2022.1.16 北青网 <https://t.yinet.cn/baijia/32066290.html>

『三成患者无症状，天津本轮疫情何时平息？张伯礼最新预判』 2022.1.11 澎湃新闻
https://m.thepaper.cn/baijiahao_16250797

『春节前天津这轮疫情能平息吗？张伯礼院士最新研判！』 2022.1.11 澎湃新闻
https://m.thepaper.cn/baijiahao_16248259

【中国 CDC 疫学首席専門家 吳尊友氏インタビュー（2022.2.9 環球時報）】

【"オミクロン株はインフルエンザのようなもの"説について】

*オミクロン株患者でも肺炎発症率はかなり高い。天津では 361 確定症例中の 42%が肺炎を発症。

*米国ではオミクロン株による死亡者はデルタ株流行時を超えている。

*オミクロン株を過小評価する風潮は、防疫にとってきわめて不利。

【インフルエンザと COVID-19 のちがい】

①インフルエンザ罹患後の免疫力は 1 年程度維持されるが、COVID-19 では 3~6 か月。

②変異の周期はインフルエンザでは 1~数年で 1 度であり、通常亜型の変異に留まるため交差免疫が有効。

【"感染力が強いほど毒性は弱まる"説について】

*生物学的にはありえない。これまでの COVID-19 の趨勢、変異からみてもありえない。

*症状が軽いと受診する人が減り、その結果市中感染が増えるという社会学的な問題である。

【この 3 月以降 COVID-19 流行が収束するというランセット Murray 論文について】

*3 月に今回の流行のピークが過ぎるということはあるが、COVID-19 流行自体の収束とはならない。

①今のところ新型コロナウイルスと人類の共存は永遠に続くと考えられる。

②COVID-19 流行の深刻度と規模は人類のウイルスとの闘いの程度により決まる。

ウイルスは永遠に存在するが、流行レベルが違ってくる。

【今後の COVID-19 との闘い】

*オミクロン株出現後、"世界のワクチン接種完成 70%でパンデミック急性期は収束する"とは言えなくなった。

*天津の感染者の多くが接種完了済み。症状の軽減には有効。

*単独の方法で COVID-19 を抑制することはできず、総合的な方法が必要。

*ワクチン、厳格な公共衛生措置、個々人の良好な衛生習慣、早期の医療介入、中西医结合などを総合的に応用して、予防と治療を進めてこそパンデミックをコントロールできる。

*中国では武漢流行の終息以降ほとんど死亡者がいない（早期治療の結果）。「動態ゼロ戦略」は防疫と死亡例を減らす上で有効であり、社会経済発展にも有効。

原文：『吳尊友接受《环球时报》专访：全球新冠大流行，3 月不可能结束』 2022.2.9 環球時報
<https://3w.huanqiu.com/a/de583b/46joLlzMwjh?p=4&agt=4>

2022.2.17

まとめ・翻訳 吉川 淳子(南京中医薬大学)